

熊本で最高のもてなしを。3月12日の九州新幹線鹿児島ルート全線開業まであと50日となる中、県内で観光客らのもてなしを向上させる取り組みが、サービス関連企業や市民グループに浸透してきた。地域観光の核となる人材の育成事業もスタートし、観光客らに再び熊本を訪れてもらえよう、受け入れ態勢の磨き上げが続いている。



全線開業までさあ50日!!



もてなし向上の研修に臨むタクシー運転手=熊本市

もてなし力 超特級に

「よろしかったでしょうか」「おかげさまで」「ありがとうございます」
 「お言葉です」「お言葉です」
 18日、県内のタクシー会社の110人が臨んだ実践形式の接客研修。講師は言葉遣いとともに▽笑顔で接する▽きちんとおしきをする▽客と視線を合わせるなどの徹底などを指南した。参加した男性運転手は「これまで言葉遣いや身だしなみが自分本位だったことが分かった」と話した。企画した県観光連盟の春日潤一事務局長は「気持ちを含めた接客が再来訪につながる」と強調する。

タクシー、ホテル、観光施設 受け入れ態勢磨き急ピッチ

いる。肥後タクシーグループは昨年11月、接遇や観光案内に優れた運転手6人を「プレミアムドライバー」に認定。その1人、齊藤哲弘さん(64)は「緊張感を持って接客に臨める」と、発音練習などに余念がない。

観光業界を担う人材の育成も始まった。県は20日、地域の観光リーダーズ専門研修を初めて開講した。観光情報を旅行会社にPRするだけでは、旅行商品の開発は難しいと判断。地域の観光素材をツアーとして組み立てられるリーダーの育成が狙いだ。自治体や観光協会から14人が参加。長洲町まじつくり課の木下健主査(35)は「金魚やフェリー、造船といった地域の魅力を生かして旅行客らの滞在につながるよう、しっかりと学びたい」と意気込んでい

熊本商工会議所は「おもてなしマスター」として、ホテルや飲食店の従業員ら33人を認定。熊本全日空ホテルニュースカイ(熊本市)のマスター13人のうち、フロントの後藤健太さん(26)は「ホテル全体のもてなしを高めるけん引役になりたい」と意欲的だ。

熊本城内で3月開業する観光交流施設「城彩苑」でも、2月から飲食物販23店舗の接客研修を始める。講師役の井

「つばめ」ちゃん 足りません

九州新幹線鹿児島ルートの全線開業イベントに合わせ、県新幹線建設促進期成会が「一日駅長」として募集している新幹線列車名と同じ名前の子どもたちのうち、20日現在で「つばめ」の応募が1人しかなく、苦戦している。応募資格は、県内在住で3月31日時点の年齢が5〜12歳の男女。昨年12月下旬に募集を始め、20日までに140人の応募があった。「つばめ」

開業日「一日駅長」

「つばめ」が1人のままなら、3人そろつのは熊本駅だけになる」と事務局の県交通対策総室。「1月31日の締め切りまで、何とかあと2人応募してほしい」としている。県交通対策総室(096)333) 2167。

(田川里美)

JR九州は3月12日の全線開業日に新玉名、熊本、新八代の3駅で出発式を開く。朝

応募まだ1人：「あと2人は必要」